

1 本校の概要

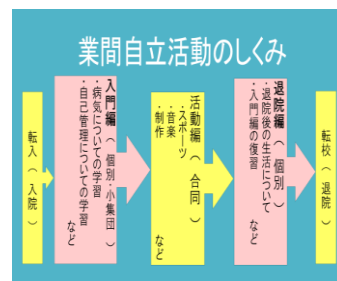
大阪府立羽曳野支援学校は、大阪はびきの医療センターに隣接する本校と、6つの病院にある分教室において病弱教育を行っている。併せて、大阪府南部の分教室や院内学級がない病院、そして感染症のために一時的に自宅療養が必要な子どもの自宅において、訪問教育を行っている。羽曳野支援学校は高等部を設置しておらず、小学生と中学生が日々学習に取り組んでいる。

本校に在籍している児童生徒は、主にアトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息といったアレルギー疾患の治療のために入院している場合が多い。幼少期から増悪・寛解を繰り返し、病気により制限のある生活を送ってきた児童生徒がほとんどである。入院期間は症状によって異なるが、短期間の入院が増えている。

2 羽曳野支援本校(はびきの医療センター隣接)

本校に通う児童生徒は、アレルギー疾患の治療に励み、症状が改善し退院するも状態が悪化し、再度入院となる場合が少なからずある。その原因の一つとして、様々な事情で服薬や日常生活での配慮事項が疎かになってしまうことが挙げられる。退院後も良い状態を維持し、いきいきと日常生活を送ることをめざした取り組みを行っている。その中心である業間自立活動の取り組みを紹介する。

昼食後に児童生徒が病棟から学校に戻り、5時間目が始まるまでの25分間、月曜日から木曜日までの週4日、業間自立活動の時間を設定している。授業の流れは図1のとおり、3つの区分に分かれている。まずはじめに、転入後、病気についての学習や自己管理の方法を学ぶ入門編を行う。その後、入門編が終了した児童生徒から活動編に移る。活動編は、教員がそれぞれの特技や趣味を活かした活動を行い、児童生徒が心身のリラックスすることや入院中の楽しみを見つけることをめざす。最後に、退院直前に退院編として入門編の復習や退院後の生活について学ぶ。入門編と退院編は、本校に通う児童生徒のほとんどの入院理由である、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息の3つのコースがある。今回は、3つのうち最も入級数が多い、アトピー性皮膚炎の学習を詳しく述べる。



(図 1)

アトピー性皮膚炎の学習は、入門編が9時間、退院編が1時間の全10時間の構成になっている。

アトピー性皮膚炎の学習は、入門編が9時間、退院編が1時間の全10時間の構成になっている。

入門編① オリエンテーション

入門編① オリエンテーション

オリエンテーションでは、自立活動とはどんな授業かを紙芝居を見て知る。その後、入院前の生活を振り返り、入院中に頑張りたいことを考える。また、現時点で自分の病気のことをどのくらい理解しているかということもアンケートを用いて確認する。



(図 2)

入門編② アトピー性皮膚炎について

アトピー性皮膚炎の症状が悪化する仕組みや、自分の皮膚の状態についてパネルシアター(図2)を使って学ぶ。今の自分の症状(かゆい、カサカサするなど)も確認する。

入門編③ 病気のコントロール その1 (ダムモデル)

パネルシアターを使用し、病気を悪化させるさまざまな原因を学び、体のなかにコップがあると例え、そのなかに原因が溜まって溢れることで症状が出るという仕組みを知る。そのあと、コップが溢れないようにするためにはコップの大きさをどうするか、原因の量をどうするかを考え、そのための方法を学ぶ。

入門編④ 病気のコントロール その2 (三本柱)

症状が出ないようにするために、環境整備・スキンケア・服薬管理の3つの柱に焦点を当て、自分でできることはなにかを考える。環境整備は掃除やアレルゲンの除去、スキンケアは肌の保湿や爪を切る、服薬管理は医師の指示を守るなどが挙げられる。

入門編⑤ 自己管理の方法

「自己管理」という言葉の意味を知り、入門編④で学んだことを踏まえて改めて症状を改善するために自分でできることを考える。

入門編⑥ 自分の状態について考えよう

イラストを使用し、入院前に痒みがあった部分と今痒みがある部分にそれぞれ色を塗る。色を塗った部分が減っていることで、服薬や入院中の規則正しい生活が症状を改善させるために大切であったことを感じさせる。その後、体の洗い方や清潔・衛生面、服装など、普段の生活で気を付けることを考える。

入門編⑦ まわりの人への伝え方

自分の病気についてまわりの人に誤解されないように伝える方法を考える。アトピー性皮膚炎の女の子が友人に自分の病気について話をしている紙芝居を見たあと、教員とロールプレイを行い実際に自分の言葉で説明する練習をする。

入門編⑧ アレルギーによい生活環境

パネルシアターを使用し、家や病室のなかでアレルギーとなる埃やカビの出やすい場所を考え、掃除の仕方を学ぶ。その後、ペットを飼うなら金魚か犬のどちらが良いか、植物を飾るなら花か薬物のどちらが良いかといった2択のクイズを行い、症状が出にくい生活を考える。

入門編⑨ 腹式呼吸（リラクゼーション・ゴリラのマチルダ）

ストレスを感じることで症状が出やすくなることを振り返り、気持ちを落ち着かせる方法として腹式呼吸を知り、練習する。座った状態でリラクゼーションを行ったあと、腹式呼吸を使ってゴリラのマチルダを歌う。

退院編

入門編の要点をまとめたプリントを用いて、退院後の生活で気を付けることを確認する。また、羽曳野支援学校での生活を振り返り、最初に考えた入院中に頑張りたいことをどれだけ達成できたかを確認する。

3、

専門的な用語や名前、症状が出たり悪化したりする様子、皮膚の状態などをカラフルなイラストを用いて視覚的に表すことで、学年関係なく関心を持って学ぶことができる。それだけではなく、毎時間の終わりに振り返りを行うと、実際に少しずつ自分の病気についての知識が身についていることがわかる。学習を進めていくと、正しく服薬することだけではなく、自分ですぐに始められることでも症状を抑えられると知り、自分でできることがあるならば頑張りたいという前向きな気持ちを持つ児童生徒が多く見られる。また、授業を通して「薬は誰かに塗ってもらっている?」「ストレスに感じることはなに?」といった質問をすることで、児童生徒が抱える家庭環境や友人関係の悩みに教員が気づくことができるきっかけにもなっていると感じる。アトピー性皮膚炎の症状をコントロールするには、服薬やアレルギーの除去はもちろん、心の安定も不可欠である。家庭環境や友人関係の悩みは、アトピー性皮膚炎のことで心無い言葉を言われたり、保護者が忙しく兄弟の世話をしたり、自分で服薬の管理が難しいなど様々である。病気によって様々な制限や辛い思いをするような経験をするのが減り、前向きに過ごすことができるようになるために、一人ひとりにより必要な知識はなにか考え、伝えていくことが必要であると感じる。少人数で時間をかけて病気の学習ができる環境を活かして、児童生徒とともにできることを考えている。